

深層国家がドナルド・トランプに直接の不気味な脅迫を突きつける

【訳者注】この解説には書かれていないが、イルミナティが大きなテロをやるときには、必ず何らかの予告をしなければならないという掟があると言われる。9・11のときには、“イルミナティ・カード”や、ミュージシャンのポスターの背景など、いくつかあった。この女性がすぐ後で、「やり過ぎだった、ごめんなさい」とあっさり謝っているところを見ても、脅迫より予告として解釈できるかもしれない。



左の写真は、2015年のブリュッセル空港爆弾テロのときのものだが、このような不思議な、明らかにヤラセとわかる写真が何枚も“公表”されているのも、「我々が狙うのは一般市民だ」という恐怖植え付けとともに、今後続くテロの予告をしているのかもしれない。

SOTN (State of the Nation)

May 31, 2017



コメディアン Kathy Griffin の首切りスタントは、目的をもって計画されたものだった。彼女は**深層国家**のために演技をしていた。

このショッキングな、米大統領に対する疑似暴力行為は、**Black Nobility** (ヨーロッパ・イルミナティ) からトランプ・チームへの公然たる警告であった。

「悪名高い“首を切られたトランプ”のフィルムを制作中の、キャシー・グリフィンのビデオ」 <http://stateofthenation2012.com/?p=73774>

深層国家のエージェントから指令を受けるコメディアンとして、キャシー・グリフィンは、なぜ自分が、このような恐ろしいメッセージを送るのに使われたのかを、よく知っている。彼女はまた、自分が誰のためにそれをやっているのか、正確に知っている。

知っておくべきこと：

いわゆるコメディアンやトークショーのホストなど、大手のネットワークで多くの視聴者をもつ人々のすべては、身分証明書をもつ CIA のエージェントか、契約者のどちらかである。したがって彼らはすべて、深層国家から支払われているエージェントだ。Stephen Colbert と Trevor Noah, Jimmy Kimmel と Jimmy Fallon, Ellen DeGeneres と Samantha Bee などすべて、John Stewart がそうだったように、隠れたエージェントである。彼らの入念に細工されたお笑い仮面は、CIA の“娯楽産業連絡オフィス”からの直接の手助けのもとに作られている。 <https://www.cia.gov/offices-of-cia/public-affairs/entertainment-industry-liaison>

誰が指令したのか？

我々はこちらで、その起源であるマフィアのドンたちの話をしている。彼らはまさにこういうふうに行動する。これと同じたちの悪い俳優が、中東全体を通じて洪水のように広がった、抑えの利かないテロの実行者である。彼らのテロ組織 ISIS は、首切りや、十字架刑や、集団射殺や、生きたまま焼き殺すことで、世界的に有名な者たちではなかったか？

この不気味に恐ろしい現実を疑う人がいたら、次の暴露記事をお読みいただきたい：
<http://themillenniumreport.com/2017/05/who-is-really-ruling-the-world/>

地球上いたる所でニセ旗テロを行う、まさにこの同じマフィアが、よく“北大西洋テロリスト組織”とあだ名される NATO を管理している。彼らは深層国家の武力行使部門にほかならない。

そこで、グリフィンのフェイク謝罪を撮った下のビデオを見ていただきたい。この謝罪のコンテキスト全体が、あたかも深層国家のハリウッド・セット専門家が、セットしたかのようなものである。彼女の脚本は、あまりにもよく稽古され、メロドラマ化されていて、これは手慣れた映画台本作者が書いたものと思えない。

「ビデオ：キャシー・グリフィンが、トランプと国家に対してフェイク謝罪を行う」

<http://stateofthenation2012.com/?p=73768>

ではそのすべての真のポイントは何か？ なぜ彼らはそんなことをしたのか？

実は、この大胆な脅迫の背後には多くの理由がある。トランプは、Black Nobility の本拠であるヨーロッパへの“破局的な”（主流新聞の見出し）旅から、帰ったばかりだった。彼の行動も言葉も、彼の比類のない独立、特に“世界の影の政府”の命令からの独立を、ずっと物語るものだった。下にあげるのは、彼の、NWO アジェンダからのより顕著な逸脱の数例である：——

1——トランプは、彼のツイッターを朝 3 時に書き込む前に、その内容を深層国家の代理人に修正させることを拒否した。それだけでも、彼が首切りの真剣な脅迫を受ける十分な理由になる。ツイッターを彼の毎日の“トランプ新聞 (Gazette)”として使うことによって、彼は Fifth Estate（第 5 階級＝体制批判層）の支柱としての機能を果たしてきた。このようなジャーナリズム的な独立は、深層国家を命じコントロールする者たちが、決して容認できるものではない。<http://cosmicconvergence.org/?p=16644>

「トランプは、大ツイッター嵐によって深層国家に挑戦する」

<http://stateofthenation2012.com/?p=73374>

2——トランプは“フェイク・ニュース”ネタを、かつてないほどに宣伝し続けている。彼に従う者たちは、同じ方向へまっしぐらに突き進んでいる。主流メディアの論説主任たちは、怒りと不信と不満で卒中を起こしそうになっている。彼ら主任たちは、プライムタイムの間、現実的に爆発している。トランプは、主流メディアを、**フェイク・ニュースだ**、と取り返しのつかぬ烙印を押してしまった。そして深層国家は激怒で血の気を失っている。

「トランプ：“フェイク・ニュース”メディアが今、情報源になっている」

<http://stateofthenation2012.com/?p=73387>

3——トランプは、ヨーロッパ旅行の間に、NATO を吹き飛ばしてしまった。彼はまた、アメリカの、絶望的に機能不全のヨーロッパ連合 (EU) との関係をぶち壊した。トランプはまた、特にドイツを選び出して攻撃した。メルケル夫人は爆発しただけでなく、基本的に大西洋間関係の終結を宣言した。そして今後は、政府に関係のないアメリカと交流すると言った。

「CFR (外交問題評議会) に支配された主流メディアが、トランプの旅行は米 - 欧関係にとって破局的と報道」 <http://themillenniumreport.com/2017/05/cfr-controlled-msm-reports-that-trumps-trip-was-a-catastrophe-for-u-s-europe-relations/>

4——トランプはパリ気象合意を承認することを拒否した。彼は、基本的に欠陥があることを知っている合意事項に、中途半端な妥協をすることを、すべて拒否した。トランプはまた、“気象変化に関する国連枠組み会議”の実行が、世界をグローバルな経済不況に陥れることを明らかにした。

「メルケル激怒：ドナルド・トランプがパリ気象合意の承認を拒否」
<http://stateofthenation2012.com/?p=73319>

5——トランプはコーミーを解任したが、それを前もって知っている者はいなかった。そうだ、トランプ党党首は、この FBI 長官の始末を、それほどまでに秘密にしておくことができた。ホワイトハウスに、そのような秘密はないことになっている。CIA、NSA、FBI、DIA、DHSなどは四六時中、ホワイトハウスを監視し、スパイを行っている。

この、深層国家の目から見て、ルール違反行為のリストはいくらでもあるが、大体の様子はわかっていただけであろう。

「黒い貴族」、マフィア、および ISIS

「黒い貴族」は明らかに、マフィアを送って、ドナルドの奴に直接の不気味な脅迫を突きつけざるをえないと思ったに違いない。キャシー・グリフィンが登場したのはそこである。彼女は ISIS のアメリカの顔だった (下の写真を見よ)。そして彼女の行為は、北レバント地方で、首切りのヤラセをするために CIA (とモサド) によって募集された役者のものと、全く変わらない。そして彼女は、おそらくどんな新しい契約でも、役者仕事でも、深層国家の主人への盲従のために、行うであろう。

↓

↓



トランプ大統領については、どうやら彼らは、彼をコントロールするどんな方法も持たないように見える。彼はいわゆる loose cannon（制御できない大砲＝何を仕出かすか分からない奴）で、誰でも導火線に火をつける者がいれば、深層国家に向かって大砲だまを撃ち込んでいる。彼は常にそのように振舞ってきた。そして彼は、2015年6月に立候補を宣言して以来、振舞ってきた解体鉄球と同じように、今後も機能するものと思われる。長年の建設者および開発者として、彼は、深層国家を解体しなければ、アメリカ共和国は再建できないことを、よく知っている。

そこで最大の懸賞問題：——万一、トランプ大統領が彼らの脅迫を真面目に受け取らなかったら、深層国家はどうするつもりだろうか？

やれ！ やっちまえ、ドナルド！

編集者注：

覚えておられるだろうか？ 映画『ゴッドファーザー』の中で、ある男が寝ている間に、その男のベッドの右側に、切った馬の首が置かれていたことを。これがまさに、深層国家のこれらマフィア・エージェントが警告するやり方である——ISIS 式に。

——以上